

新市立伊勢総合病院建設工事設計業務プロポーザル審査報告書

新市立伊勢総合病院建設工事設計業務受託者選考委員会

1 選考委員会

委員長	加藤 彰一	三重大学大学院工学研究科教授
副委員長	奥宮 正哉	名古屋大学大学院環境学研究科教授
委員	藤本 昌雄	市立伊勢総合病院 院長
	多上 智康	市立伊勢総合病院 医療技術部長
	木津井ひづる	市立伊勢総合病院 看護部長
	藤井 昭慶	伊勢市 検査室参事

2 選定の経緯

平成26年	4月 3日 (木)	プロポーザル公告
	4月16日 (水)	参加申込書提出期限
	5月 2日 (金)	一次審査書類の提出期限
	5月 8日 (木)	一次審査 (書類審査)
	6月 4日 (水)	二次審査書類の提出期限
	6月14日 (土)	二次審査 (ヒアリング)

《一次審査》

- ・平成26年5月8日(木)選考委員5名の出席により選考委員会を開催した。(1名欠席・採点は事前提出)
- ・審査にあたっては、参加9社について、事務局が受付順にA社からI社を記し提案者名を伏せた上で、提案書類について評価・採点を行った。
- ・担当チームの対応については、建設基本計画の方針に基づいたコンセプトが漏れなく整理されている提案や、新しく提唱されているBIM(三次元CADシステム)を用いた設計に対する評価が高かった。
- ・担当チームの能力については、主に管理技術者をはじめとする担当技術者の経験年数及び業務実績数により評価を行った。
- ・各委員で提案書類の評価・採点を行い、集計結果により、A社、B社、E社、I社の4社を一次審査合格者《二次審査(ヒアリング)書類提出要請対象者》として選定した。
- ・二次審査の日時について協議を行い、閉会した。

《二次審査》

- ・平成26年6月14日（土）選考委員6名の出席により選考委員会を開催した。
- ・一次審査で選定した4社に対して、提案者名を伏せた上で、技術提案書についてヒアリング（説明30分以内、質疑を含め50分以内）を実施した。
- ・技術提案書やヒアリングを踏まえ、各委員が課題ごとの評価・採点を行い、集計結果により、最優秀者として株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所（B社）、次点として株式会社久米設計 名古屋支社（I社）を選定した。

3 審査の結果

一次審査結果

受付順	事業者名	審査結果
A社	株式会社日建設 名古屋オフィス	合格
B社	株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所	合格
C社	株式会社田中建築事務所	
D社	株式会社日本設計 中部支社	
E社	株式会社大建設 名古屋事務所	合格
F社	株式会社内藤建築事務所 名古屋事務所	
G社	株式会社佐藤総合計画 中部事務所	
H社	株式会社山下設計 中部支社	
I社	株式会社久米設計 名古屋支社	合格

二次審査結果

ヒアリング順	事業者名（ヒアリング時の名称）	審査結果
1	株式会社日建設 名古屋オフィス（A社）	
2	株式会社大建設 名古屋事務所（E社）	
3	株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所（B社）	最優秀
4	株式会社久米設計 名古屋支社（I社）	次点

※新市立伊勢総合病院建設工事設計業務受託者選考基準に基づいた審査の結果であり、各事業者の社会的な評価ではありません。

4 審査の講評

【総評】

本プロポーザルは、厳しいコストや面積の制約の中で、病院の重点整備項目の実現とともに、将来の医療環境変化への対応や建設工事費の縮減などを課題として、併せて自由な提案を求めたものであり、公募に応じた9社からいずれも十分な技術力を感じ取ることができる提案書が提出された。

一次審査では、建設基本計画の方針に基づいたコンセプトが漏れなく整理されている提案や、新しく提唱されているBIM（三次元CADシステム）を用いた設計に対する評価が高かった。

二次審査では、基本計画書の内容に対して十分な面積水準を適切なコストで実現できるか、地域に対する景観の配慮や保健・健診活動の充実、将来の増改築に対する配慮、病棟構成の変更や個室化への対応などについて、4社から充実した内容の提案書が提出され、ヒアリングにより審議を深めていった結果、最優秀者及び次点者を選定することができた。

しかしながら、限られた時間、情報に基づく提案は必ずしも万全のものではない。また、本プロポーザルは、提案された内容をそのままに設計を行うものではなく、設計者の選定が目的である。本業務受託者の技術力が発揮され、今後、設計を進めていく中で様々な課題を克服し、長く利用者に愛され、病院運営に寄与する素晴らしい病院づくりが実現することを期待する。

【二次審査講評】

◎最優秀者 株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所〔B社〕

建設コストや面積の制約に対して、既存建物の活用が提案され、新病院開院後に耐震補強や改修が必要となることや、患者動線、効率的な人員配置等、課題となる点も想定されるが、発注者側の立場に立って建設費の縮減を考慮した、独自性のある提案が評価された。

また、BIM（3次元CADモデル）の積極的な活用による設計や施工時の効率化が期待でき、さらに開院後の施設の長寿命化に貢献できる手法の提案がされた。

病棟計画では、個室をグルーピングする多床室的個室群の提案がされており、効果的・効率的な看護動線を実現している。また、4床室を個室に変更をした場合においても同様の効果が期待できる提案がされている。

ヒアリングでは、提案意図の説明が4社の中で最も優れており、質疑に対しても明確な回答が示され、チームの提案力、表現力等を高く評価できるものであった。

○次点 株式会社久米設計 名古屋支社〔I社〕

工期の短縮や建設費の縮減について、具体的に面積や金額・日数といった数値を示す形の積極的な提案であった。維持管理費の縮減についても、地域の特性を考慮した実現性の高い提案であった。また、病棟の看護動線が短く、健康増進ゾーンという考え方は評価できるものであった。

しかし、建設費縮減のため、病棟階高を抑制することとしているが、構造躯体に鉄骨を使用し、内部を長スパン軽量化することについて設備面等で課題が残る提案であった。

また、病棟構成は適切と思われるが、ICUが他病棟から独立しているため、病棟スタッフの配置について課題が残る提案であった。

○株式会社日建設計 名古屋オフィス〔A社〕

外来診療部におけるフリーアドレス診察室の導入や既存の放射線治療室の活用提案など、コスト・面積縮減の具体案が示されており、特に経験を踏まえた発注工程の提案は技術的に優れたものであった。

また、病棟構成は適切なものであり、病棟平面では個室化を満たす工夫がされているが、看護動線が他社と比較して長く、ICUが他病棟から独立しているため、病棟スタッフの配置についても課題が残る提案であった。

スタッフステーションについては、開放的なフルオープン提案があったが、職場環境や個人情報管理の運用を想定すると課題が残るものであった。

○株式会社大建設計 名古屋事務所〔E社〕

部門別の構成や配分面積は、基本計画に沿った内容となっている。しかし、風致地区であることや景観計画区域の建物のあり方として、6階建ての提案については、課題が残るものであった。

また、病棟構成では1フロア2看護単位を採用しており、効率的な平面となっているが、6階の看護単位の組み合わせは、療養病棟と緩和ケア病棟の合計40床での構成となっており、病棟スタッフの配置について課題が残る提案であった。